

<作業環境管理学領域について>

指導教員：宮内 博幸、樋上 光雄、東久保 一郎、石田尾 徹

作業環境管理学は、作業環境や作業工程に存在する健康有害要因（化学物質、粒子状物質、騒音、電磁波など）を的確に予測し、計測・評価し、そして管理する現実的かつ効果的な方法を探求する学問領域である。「作業環境管理学特論」では、有害性の特定、最新の環境計測技術、曝露アセスメント法、リスク評価法などについて習得し、「作業環境管理学演習」では、事例研究を通して作業環境や作業工程の問題点を指摘し、評価・改善する能力を修得させ、さらに「作業環境管理学実習」では、産業現場で得られた課題について具体的な改善方法を提案することを目指す。「作業環境管理学論文指導」では、得られた研究成果について議論を繰り返しながら研究のまとめ方を学び、かつ、論文の構造、構成、記載方法、投稿の倫理などを実践的に修得する。

この「作業環境管理学」の特色は、労働衛生学、化学、中毒学、衛生工学、人間工学、健康科学、疫学、生理学などの幅広い領域の知識や技術をもとに、作業環境や作業工程に存在する健康有害要因を的確に予測し、認識し、評価し管理できる高い能力、すなわちオキュペイショナルハイジニストに相当する能力をこの科目を通して修得することにある。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

作業環境管理学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

作業環境計測制御学講座（宮内 博幸教授、樋上 光雄教授、東久保 一郎教授、石田尾 徹講師）が中心となって指導する研究

- 労働者の作業環境における化学物質ばく露計測技術、曝露アセスメント法、リスク評価法の研究
- 有害化学物質によるばく露防止のための有効な化学防護手袋、化学防護服の研究
- 作業場における視環境の評価と改善方法の研究

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目を全て満たすこと。

- 機器分析による研究が主体となるため、そのために必要な時間が確保できている。
- 機器分析に関する分析手法を理解している。

- 何らかの学術論文を執筆、あるいは学会発表をした経験がある。

問い合わせ先：作業環境計測制御学 代表メールアドレス
j-1knkyo@mbox.health.uoeh-u.ac.jp